



## 2019年7月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2018年12月10日

上場会社名 株式会社 大盛工業

上場取引所 東

コード番号 1844 URL <http://www.ohmori.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 和田 明彦

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 及川 光広

TEL 03-6262-9877

四半期報告書提出予定日 2018年12月17日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年7月期第1四半期の連結業績(2018年8月1日～2018年10月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年7月期第1四半期	1,394	90.3	89	39.3	73	48.4	54	58.9
2018年7月期第1四半期	732	37.5	146		141		133	

(注) 包括利益 2019年7月期第1四半期 54百万円 ( 58.9%) 2018年7月期第1四半期 133百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年7月期第1四半期	3.69	3.66
2018年7月期第1四半期	8.97	8.94

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年7月期第1四半期	7,398	3,749	50.3	250.76
2018年7月期	6,657	3,768	56.2	252.05

(参考) 自己資本 2019年7月期第1四半期 3,720百万円 2018年7月期 3,739百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年7月期		0.00		5.00	5.00
2019年7月期					
2019年7月期(予想)		0.00		5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年7月期の連結業績予想(2018年8月1日～2019年7月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,592	53.8	169	11.0	137	18.6	102	31.3	6.91
通期	5,374	29.8	386	23.9	342	11.4	242	7.1	16.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年7月期1Q	14,848,429 株	2018年7月期	14,848,429 株
期末自己株式数	2019年7月期1Q	13,457 株	2018年7月期	13,077 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年7月期1Q	14,835,206 株	2018年7月期1Q	14,838,285 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

「2019年7月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の懸念、海外経済の不確実性などに留意する必要があるものの、政府、日銀による経済政策・金融政策等により、企業収益の改善や設備投資の増加に加え、雇用・所得環境も着実に改善するなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

建設業界におきましては、民間設備投資が引き続き増加したほか、公共投資も堅調に推移したため、全体的な業況は緩やかに回復を続けておりますが、一方で施工管理技術者及び施工を行う技能労働者不足の状況が続いているため、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、主力の建設事業におきましては、東京地区における上・下水道工事の選別受注を行うとともに、事業基盤の拡大、完成工事高、完成工事総利益の増加並びに優秀な施工管理技術者の獲得を図るため、山梨県下において土木事業を行う井口建設株式会社の株式の取得を行い、子会社といたしました。

不動産事業におきましては、不動産物件の販売並びにO L Y機材リース事業における販売エリアの拡大に注力してまいりました。

通信関連事業におきましては、積極的に営業活動を行うとともに体制の整備を進め、通信回線の保守・管理業務における売上高及び売上総利益の増加に注力してまいりました。

また、クローゼットレンタル事業、鍼灸接骨院事業におきましては、顧客数増加に向けた宣伝活動を継続してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,394,342千円(前年同期比90.3%増)、営業利益は89,065千円(前年同期比39.3%減)、経常利益は73,182千円(前年同期比48.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は54,725千円(前年同期比58.9%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### (建設事業)

建設事業におきましては、受注高(子会社取得時受注残高を含む)1,070,599千円(前年同期比2.3%増)、売上高723,712千円(前年同期比43.7%増)、セグメント利益(営業利益)7,517千円(前年同期比94.7%減)となりました。

#### (不動産事業等)

不動産事業等におきましては、不動産物件の売却並びに賃貸収入、O L Y機材のリース販売等により、売上高566,131千円(前年同期比320.3%増)、セグメント利益(営業利益)70,221千円(前年同期は8,334千円のセグメント損失)となりました。

#### (通信関連事業)

通信関連事業におきましては、N T T局内の通信回線の保守・管理業務等により、売上高100,385千円(前年同期比0.6%増)、セグメント利益(営業利益)12,881千円(前年同期比19.6%減)となりました。

#### (その他)

その他事業におきましては、クローゼットレンタル事業並びに鍼灸接骨院事業等により、売上高8,772千円(前年同期比23.7%減)、セグメント損失(営業損失)1,554千円(前年同期は1,504千円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産の残高は、7,398,177千円となり、前連結会計年度末に比べ740,325千円増加いたしました。増加の主な理由は、現金及び預金の増加201,496千円、受取手形・完成工事未収入金等の増加600,121千円、未成工事支出金の増加18,000千円、不動産事業等支出金の増加10,731千円、販売用不動産の減少252,078千円、有形固定資産(純額)の増加40,572千円、のれんの増加94,565千円によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債の残高は、3,648,613千円となり、前連結会計年度末に比べ759,543千円増加いたしました。増加の主な理由は、工事未払金の減少33,868千円、未成工事受入金金の増加107,107千円、短期借入金金の増加485,115千円、未払法人税等の減少33,449千円、長期借入金金の増加238,412千円によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、3,749,563千円となり、前連結会計年度末に比べ19,218千円減少いたしました。減少の主な理由は、利益剰余金の減少19,125千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年7月期の第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2018年9月14日付の当社「平成30年7月期決算短信〔日本基準〕(連結)」において発表しました業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、実際の業績は様々な要因により予想値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,660,639	1,862,135
受取手形・完成工事未収入金等	1,087,601	1,687,723
未成工事支出金	142,295	160,296
不動産事業等支出金	116,198	126,930
販売用不動産	1,655,414	1,403,336
貯蔵品	461	466
その他	133,637	136,101
貸倒引当金	△11,954	△3,442
流動資産合計	4,784,294	5,373,548
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	778,495	785,218
機械・運搬具(純額)	67,182	86,049
土地	611,876	624,376
リース資産(純額)	13,816	12,872
建設仮勘定	40,715	44,143
有形固定資産合計	1,512,087	1,552,659
無形固定資産		
のれん	31,327	125,893
その他	5,687	5,207
無形固定資産合計	37,015	131,100
投資その他の資産		
長期貸付金	63,512	62,597
固定化営業債権	337,402	337,402
保険積立金	72,971	73,470
退職給付に係る資産	5,960	1,770
繰延税金資産	61,268	54,479
その他	129,204	165,290
貸倒引当金	△346,293	△354,534
投資その他の資産合計	324,026	340,475
固定資産合計	1,873,129	2,024,235
繰延資産	428	392
資産合計	6,657,852	7,398,177

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
工事未払金	418,530	384,661
短期借入金	321,795	806,910
未払金	104,764	128,415
未払法人税等	51,058	17,608
未成工事受入金	302,820	409,928
賞与引当金	54,142	56,794
完成工事補償引当金	26,706	21,657
その他	161,708	151,089
流動負債合計	1,441,526	1,977,066
固定負債		
長期借入金	1,199,866	1,438,278
長期未払金	209,976	197,862
その他	37,701	35,406
固定負債合計	1,447,543	1,671,547
負債合計	2,889,070	3,648,613
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,765,371	2,765,371
資本剰余金	705,162	705,162
利益剰余金	323,592	304,466
自己株式	△54,884	△54,977
株主資本合計	3,739,241	3,720,023
新株予約権	29,540	29,540
純資産合計	3,768,782	3,749,563
負債純資産合計	6,657,852	7,398,177

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年8月1日 至 2017年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年8月1日 至 2018年10月31日)
<b>売上高</b>		
完成工事高	503,596	723,712
不動産事業等売上高	117,879	561,487
通信関連売上高	99,738	100,385
その他の売上高	11,500	8,757
売上高合計	732,715	1,394,342
<b>売上原価</b>		
完成工事原価	316,215	665,037
不動産事業等売上原価	113,457	462,013
通信関連原価	50,379	48,382
その他の売上原価	10,677	8,055
売上原価合計	490,729	1,183,488
<b>売上総利益</b>		
完成工事総利益	187,381	58,675
不動産事業等総利益	4,421	99,473
通信関連総利益	49,359	52,002
その他の売上総利益	823	702
売上総利益合計	241,986	210,853
販売費及び一般管理費	95,184	121,788
営業利益	146,802	89,065
<b>営業外収益</b>		
受取利息	220	260
為替差益	1,836	1,429
未払配当金除斥益	—	1,908
その他	1,066	2,496
営業外収益合計	3,123	6,094
<b>営業外費用</b>		
支払利息	8,099	6,977
支払手数料	—	15,000
その他	0	—
営業外費用合計	8,100	21,977
経常利益	141,825	73,182
税金等調整前四半期純利益	141,825	73,182
法人税、住民税及び事業税	7,690	12,295
法人税等調整額	976	6,161
法人税等合計	8,667	18,457
四半期純利益	133,157	54,725
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	133,157	54,725
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
その他の包括利益	—	—
四半期包括利益	133,157	54,725
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	133,157	54,725
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第1四半期連結累計期間(自2017年8月1日至2017年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益及 び包括利 益計算書 計上額 (注)3
	建設事業	不動産事業等	通信関連事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	503,596	117,879	99,738	721,214	11,500	732,715	—	732,715
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	16,832	—	16,832	—	16,832	△16,832	—
計	503,596	134,712	99,738	738,047	11,500	749,548	△16,832	732,715
セグメント利 益又はセグメ ント損失(△)	140,622	△8,334	16,018	148,306	△1,504	146,802	—	146,802

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クローゼットレンタルの売上等及び鍼灸接骨院事業売上であります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

売上高の調整額△16,832千円は、セグメント間取引消去△16,832千円であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2018年8月1日至2018年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)3
	建設事業	不動産事業等	通信関連事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	723,712	561,487	100,385	1,385,584	8,757	1,394,342	—	1,394,342
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	4,644	—	4,644	15	4,659	△4,659	—
計	723,712	566,131	100,385	1,390,228	8,772	1,399,001	△4,659	1,394,342
セグメント利 益又はセグメ ント損失(△)	7,517	70,221	12,881	90,620	△1,554	89,065	—	89,065

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クローゼットレンタルの売上等及び鍼灸接骨院事業売上であります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

売上高の調整額△4,659千円は、セグメント間取引消去△4,659千円であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「建設事業」セグメントにおいて、井口建設株式会社の発行済株式の全部を取得したことに伴い、のれんが発生しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間において96,834千円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。